

実践・活動報告

名古屋市立大学大学院看護学研究科 急性・重症患者看護専門看護師勉強会の報告

A report of the Critical Care Nurse Specialist's study group in Nagoya City University

丸谷幸子¹⁾ 明石恵子²⁾

キーワード：急性・重症患者看護専門看護師

Key words : Critical Care Nurse Specialist

要 旨

2007年4月、名古屋市立大学大学院看護学研究科（以下、名市大）に急性・重症患者看護専門看護師教育コースが設置され、急性・重症患者看護専門看護師の教育が開始された。これに伴い、専門看護師（以下、CNS）を目指す学生の勉強の場として2010年にこの勉強会はスタートした。開始当初から認定試験対策として、実践・相談・調整・倫理調整・教育をテーマとした事例の検討を行っている。また参加者の増加に伴い、交流の場としての役割を果たし、他組織との協働の場としての機能も果たすようになってきた。①山口大学の急性・重症患者看護専門看護師養成コースとの合同ゼミ、②東海臨床倫理研究会における事例検討会の共催、③東海精神看護CNS事例検討会との合同ゼミである。こうした外部の組織との交流は、新たな視点を得て学びを深める機会となっている。今後もこの勉強会がCNSのスキルアップや交流の場として機能することを期待している。

I. はじめに

2007年4月、名古屋市立大学大学院看護学研究科（以下、名市大）に急性・重症患者看護専門看護師教育コースが設置され、急性・重症患者看護専門看護師の教育が開始された。2010年5月より、専門看護師（以下、CNS）の学びを深めるために、名市大のクリティカルケア看護専門看護師教育コース修了者、クリティカルケア看護専門看護師教育コース在学2年目以上の学生、クリティカルケア看護学領域の教員等で構成される勉強会を開始した（大野他、2013）。また、2015年度から山口大学専門看護師養成コース、2017年度より東海精神看護CNS事例検討会との合同ゼミをそれぞれ年1回開催し、他大学や他分野のCNSと交流を図っている。学習会は現在も継続しており、開始当初教員も含め7名

だった参加メンバーは、10年目を迎えた2019年度は25名（教員3名を含む）へ増加した。本稿ではこれまでの学習会の実施状況と今後の展望について報告する。

II. CNS 勉強会の役割と開催状況

発足当初、東海地方に急性・重症患者看護CNSはおらず、全国でも42名と少数であり、ロールモデルとなるCNSが存在しなかった。このため、CNSの役割について知識を深めること、認定試験対策を行うことを目的に勉強会を開始した。年を経て認定者が増えると、候補者にとっては認定試験対策としてだけでなく、CNSの実践を学ぶ場となり、CNS認定者にとっては情報交換の場としての役割を果たすようになってきた。

勉強会は論文作成で多忙となる12月を除く毎月

受理日：2020年1月31日 採択日：2020年2月1日

¹⁾名古屋市立大学病院 ²⁾名古屋市立大学看護学研究科

表1 2018年度急性・重症患者看護専門看護師勉強会開催状況

回数	開催日	内容	参加人数*
第1回	4月19日	事例検討：実践2事例	10
第2回	5月17日	事例検討：実践1事例、相談1事例	11
第3回	5月29日	東海臨床倫理研究会：超高齢者における集中治療と緩和医療	8
第4回	6月19日	事例検討：実践1事例、相談1事例、倫理調整1事例	8
第5回	7月17日	事例検討：実践1事例、倫理調整2事例	11
第6回	8月21日	事例検討：実践1事例、調整1事例	8
第7回	9月18日	チーム医療に関する検討	11
第8回	10月16日	新たなガイドライン等についての勉強会	11
第9回	11月10日	山口大学大学院との合同ゼミ：調整事例の検討	11
第10回	1月15日	第28回専門看護師認定審査 急性・重症患者看護問題の検討	12
第11回	2月16日	東海精神看護CNS事例検討会との合同ゼミ：調整事例の検討	12
第12回	3月19日	第28回専門看護師認定審査 急性・重症患者看護問題の検討	9

*教員を含まない

1回実施している。勉強会の内容は、前年度にCNSを取得した参加者が主となって4月から1年間のスケジュール（表1）を作成し、皆の承認を得て実施している。勉強会メンバーの中には、東海三県や近畿地方で活動し、勉強会に参加することが困難なCNSもいるため、情報共有やスケジュールの確認にオンラインストレージサービスを使用している。

また、2018年度から年間6回以上参加すると、専門看護師更新審査の際に4ポイントとして申請できるように参加証明書を発行することとした。2018

年度のCNSや候補者の参加人数は毎月8～12名であり、5名が参加証明書をえた。

Ⅲ. 勉強会の内容

勉強会の内容は試験で問われる実践・相談・調整・倫理調整・教育をテーマとした事例の検討である。2018年度までの認定試験では、これらの専門看護師の役割それぞれについて、規定のA4用紙1枚にまとめた事例を看護実践報告書として提出する必要があった。そのため4月から10月は、11月に行われるCNS試験の準備期間として、受験予定者の提出事例の検討と添削を行った。2019年度より書類申請時の内容が変更されて事例の提出がなくなり、実務研修内容として実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究を具体的に記入することとなった。そのため、4月の勉強会では提出事例の検討と添削を行ったが、その後は、過去にCNS試験で出された問題や先輩CNSが作成した問題をもとにCNSとしての実践、相談、調整、倫理調整、教育のあり方を議論している。

また、2016～2017年には急性・重症患者看護専門看護師のコンサルテーション事例の報告をもとに看護の質評価の構成要素について検討し、第13回



写真1 急性・重症患者看護専門看護師勉強会

日本クリティカルケア看護学会学術集会で発表するとともに、短報として学会誌で報告した（大野他，2018）。

IV. 他組織との協働

1. 山口大学 急性・重症患者看護専門看護師養成コースとの合同ゼミ

2015年度より山口大学の急性・重症患者看護専門看護師養成コースと合同ゼミを行い、CNSの役割についてのグループディスカッションを年1回行っている。きっかけは2014年に小倉で開催されたCNS協議会主催の急性・重症患者看護専門看護師学習会で、山口大学出身のCNSと名古屋市立大学のCNSが一緒になり、共に学ぶ場をつくりたい、と意気投合したことであった。初回、2015年は本州の中央と西端、といった大学間の距離の問題から中間地点である神戸で開催した。しかし、互いに土地勘がなく開催場所や宿泊の準備などに苦労した。このため2016年以降は1年ごと交互に名古屋と山口を行き来することとし、勉強会の企画や運営などもその年の担当大学のCNSが行うこととした（表2）。山口大学の修了生は教育者として勤務しているCNSが多く、



写真2 山口大学との合同ゼミ

名古屋市立大学は実践家が多い。それぞれの視点の違いを活かした意見交換ができることは、CNSとしての視野を広げ、学びを深めることに役立っている。

2. 東海臨床倫理研究会の共催

2016年度より東海臨床倫理研究会（本誌別稿で詳細を報告）を共催している。この研究会は、保健医療福祉現場で生じやすい倫理問題を検討し、質の高い実践につながる方略を学ぶことを趣

表2 山口大学との合同ゼミ開催状況

開催日	場所	内容	参加人数
2015年 9月 26・27日	神戸市産業振興センター	1日目；倫理調整事例の検討 CNSの実践とは 2日目；CNSとして今後実践したいこと	24
2016年 9月 10・11日	名古屋市立大学 看護学部	1日目；コンサルテーションの質評価指標について 教育の質評価について CNSの役割における質評価について 2日目；名古屋城観光	23
2017年 11月 11・12日	山口勤労総合福祉センター サンフレッシュ山口	1日目；倫理調整事例の分析 倫理調整の実際について 2日目；山口観光	35
2018年 11月 10日	名古屋市立大学 看護学部	・システム調整について ・倫理調整について	27
2019年 11月 23日	岡山市民病院	・コンサルテーション事例の検討 ・ラウンドテーブルディスカッション；活動の可視化 (リハビリ・CNS教育・医療安全・実践 他)	35



写真3 東海臨床倫理研究会の共催

旨としている。毎年1回開催され、多施設・多職種の参加者によって倫理的問題のある事例に対するグループワークと全体討議が行われている。参加者は臨床倫理に関心を持つ看護師や医師、事務職員など60名前後であるが、参加者の所属施設や立場、臨床倫理に関する知識や実践の程度はさまざまである。そのなかで急性・重症患者看護専門看護師勉強会のメンバーは、グループワークの際に事例検討の方法を説明したり、倫理的問題の考え方を示したりしてファシリテーターの役割を担っている。これにより、専門看護師としての倫理調整能力の向上につなげている。

3. 東海精神看護 CNS 事例検討会との合同ゼミ

2017年度より東海精神看護 CNS 事例検討会との合同ゼミを実施している。参加者は、名古屋市立大学大学院看護学研究科急性・重症患者看護専門看護師勉強会または東海精神看護 CNS 事例検討会のメンバーと名古屋市立大学大学院看護学研究科博士前期課程専門看護師教育コース1年生である。合同ゼミの目的は、「専門看護師として必要な能力である『調整』に焦点をあて、精神看護専門看護師、急性・重症患者看護専門看護師および専門看護師を目指す大学院生・修了生が分野や経験を越えて自由に語ることで、専門看護師の『調整』についての理解を深める」である。このテーマに沿って事例を提示し、「調整」に焦点をあててグループワークと全体討議を行っている。毎年2月に開催し、2017年度は急性・重症患者看護分



写真4 東海精神看護 CNS 事例検討会との合同ゼミ

野における「看護師-医師間の調整」、2018年度は精神看護分野における「自傷を繰り返す患者に対するケア」について議論した。クリティカルケア領域において精神的な問題をもつ患者とその家族に関わる機会は多く、精神看護専門看護師との議論によって新しい視点が加わり、貴重な学修の機会となっている。

V. 今後の展望

急性・重症患者看護専門看護師の認定試験合格率は全国で67%程度であり、資格更新も厳しくなっている。CNSやCNS候補者のスキルアップを図り、実践能力を向上させるために、このゼミの役割はより重要なものになると考えている。また、学習会開始後10年経った今、参加しているCNSは14名に増え、他組織との協働の機会も増えている。こうした交流の増加が、今後、専門看護師それぞれの活躍の場を広げる支援につながっていくことを期待している。

文 献

- 大野美香, 丸谷 幸子, 館 昌美, 他. (2018). コンサルテーション事例から検討した急性・重症患者看護専門看護師の看護の質評価の構成要素. 日本クリティカルケア看護学会誌, 14, 99-102.
- 大野美香, 丸谷 幸子, 竹中利美, 他. (2013). 急性・重症患者看護専門看護師勉強会活動報告. 名古屋市立大学看護学部紀要, 12, 69-71.